



「覆輪砂子こうなんげ」、「讃岐 肉桂(にくけい)」、「斑入り唐棕櫚(とうしゅろ)」を掲載。

いずれも讃岐高松藩の奇品であり、唐棕櫚は南国を想起させたであろう。

文政10年の藩主は、9代松平頼恕(よりひろ)であるが、奇品をより愛したのは8代頼儀(よりのり)であろうか。

時代を遡り5代松平頼恭(よりのたか)は、江戸城内の吹上御殿を倣って栗林荘(現在の栗林公園)に、家臣の平賀源内をもって薬草園を造らせた。マルチ人間平賀源内は本草家としても一流であった。(2009.11.23)

Copyright (C)2009 増田信敬 (masuda nobutaka) All rights reserved

出典 「草木奇品家雅見」 文政10年(1827年) 増田繁亭金太 著 架蔵本

(参考文献)

- ・「「草木奇品家雅見」解説」昭和51年 監修者 岩佐亮二、執筆者 塚本洋太郎、前島康彦、笠原基知治、横井政人、広瀬嘉道、芦田潔 青青堂出版
- ・栗林公園内掲示、同パンフレット

<http://suumokukihinkagami.com/>